

因北中学校 研究だより

学びを深める
～互恵的な授業づくりを通して2nd STEP～

令和2年9月2日（水） 第3号

●8月20日（木）、令和2年度本校区小中合同研修会が行われました。

○福山市立東中学校の高橋延昌校長先生を講師にお招きし、「個別最適な学び」の考え方や校内適応指導教室運営方法等について、校長先生の有効的な実践講話を因北小中の教職員で拝聴し研修しました。

その後、学習指導、不登校対策、特別支援教育の3つのグループに小中教職員が分かれて、課題を出し合い、整理し、手立てを考え、小中合同で取り組んでいけることについて協議しました。

高橋先生の講話やグループ協議に関するアンケート結果の抜粋を紹介します。

●高橋校長先生の講話について

中学校

○これからの授業では、学び合いの時間をどう

仕組むかを全教科で取り組むことが私たちのすべきことだと考えておりましたので、先生のお話はとても参考になりましたし、グループ協議でも小学校・中学校で共通して取り組める内容だと共通理解を図ることが出来ました。ありがとうございました。

○生徒指導規程を生徒が一から考え直し、作成させるという取組が印象的でした。

また、「学び合い」のために宿題ではなく、予習を行ってこさせるということで、よりスムーズに学びに向かうことができると感じました。

○子どもたちを自主的、主体的に活動させるためにも、学年を越えた教員同士の連携に取り組む事が大切だと改めて考えさせられました。ありがとうございました。

○福山市内の大規模校に勤務していたことがあるので、都市部の学校の持つ特有の課題・困難さもいくらかはわかります。その中で、生徒の自主性を生かして生徒主体の学びを作られていることに大きな感銘を受けました。

小学校

○様々なご経験を踏まえられての講話であり、今後に生かすべき所ばかりでした。児童・生徒主体が内実化するよう、教師の入念な準備が必要であると感じました。

○校長先生のこだわりが職員を動かし、こどものやる気を奮いおこしていくことが、素敵でした。主体的な学び合いについて、本校でも、共通理解し、子ども達を育てていきたいです。

○西川純先生の『学び合い』実践、大変勉強になりました。『学び合い』は考え方だとも話していますが、一人も見落とさない、そういう意識を持った子どもたち、やがて大人になっていく”人”を育てていきたいと思いました。

○生徒に責任をもたせ、任せていく自治的な取組や学び合いによって、学力だけでなく、共感的な人間



関係の育成につながるものがとても参考になりました。

●グループ協議について

次の様な課題とそれに対する手立てのアイデアができました。

○学習指導

授業

- ・授業作りの中に教え合いペアトークを入れる。
- ・話し合いのシステムを小中共通（系統性のある）なものにする。
- ・小中の教員交換

学力差を埋める手立て

- ・学力補充
- ・帯タイムの活用
- ・家庭・学校における学習に向かう姿勢や学習習慣をつける取組

忘れ物や提出物への取組

- ・置いて帰ってよい物は置いて帰る。
- ・未提出の生徒を知らせるボードを活用する。



○不登校対策

- ・小学校から中学校へ幼い頃からの理解の積み重ね
- ・中学校の様子がわかる取組
- ・児童生徒の情報交流
- ・直接会って話す（保護者・児童生徒）
- ・生活リズム（就寝時間・ノーテレビデー）
- ・長期休暇中の学力補充
- ・自分以外の人とのつながり（カウンセラー・ソーシャルワーカー・養護教諭）



○特別支援教育

- ・異年齢集団での交流（お手本になりたいという意欲）
- ・小中での情報交流の充実
- ・個別・学習課題など→連携の場
- ・「発表の場」の設定→小中共同の取組
- ・自分たちで納得するルールを身に付けさせる（係・席など）
- ・気持ちのよい言葉を身に付けさせる。（見える化・顔の表情）



●グループ協議についての感想

学習指導グループ

中学校

- 中学校の生徒への対応へのヒントは小学校の先生方の日常の工夫や手立ての中に多くあるのではないかと思います。
- 忘れ物や学力差を埋める取組を小中共通して取り組んでいきたい。

小学校

- 小学校での基礎基本の定着が必要と改めて感じた。生徒指導の充実と学力の定着は両輪であることを再認識した。
- 小学校と中学校で取組を同じにすることで、子どもたちの中学校でのこまり感をへらすことができると感じた。

不登校対策グループ

中学校

- お互いの立場から、課題と取組を協議したことで、視野が広がりました。
- 生活のみだれから、不登校につながらないように、生活リズムチェックのチャートを小学校でされ、成果がでたということで、中学校でも取り組んでみたい。
- 小中で児童の実態を共有するだけでなく、どう対応していくか、本人とどう接していくのがいいのか、一緒に考えて行くのが大切だと思いました。中学校の先生から三種の課題・対応は勉強になりました。
- 小学校での、いわゆる”しんどい子”への周りの理解をどれだけ醸成できるかが、中学校での指導や本人の生活においてのカギになるということを考えさせられた。
- 不登校にかかわる課題や取組を話し合う中で、小中の児童生徒の情報共有が大事だと思った。いっしょに取り組める学力補充、SNSに対する対策など、情報共有、連携していきたい。

特別支援教育グループ

中学校

- 小学校の先生と交流を持つことはとても有意義だと思う。小学校の先生(保護者)が、中学校の何がわからないのか、どこに不安を持っているのかということが少し理解できた。

小学校

- 中学校の先生方のお悩みを聞いて、小学校でもっとこうしなければいけないなあということ、中学校での取組を聞いて小学校でも取り組み、連携していきたいと思いました。
- 同じ悩みを抱えていらっしゃる事が分かり、そこがまずよかった。学習のゴール設定のことや、言葉・表情などのソーシャルスキルの面でとても参考になった。

◆今後の小中合同研修の予定

10月29日(木) 因北小学校において特別支援学級の授業参観及び特別支援教育の研修

11月20日(金) 因北中学校において第一学年の国語科と音楽家の授業参観及び授業に関する協議の研修

※ 今回の合同研修会で小中で共通して取り組む意義と方向性を確認することができました。本校区の児童生徒のために全教職員で力を合わせて取り組んでいきましょう。